

職場
オルグ

“職場の声”を要求に



勝浦市職員組合

9割の職場
分会を訪問

勝浦市役所職員組合は毎年、各職場分会を訪問し要求を直接聴く

とともに、組合の意義や方針を組合員に伝える「職場オルグ」(下【解説】参照)を行っています。

要求、質問
提案つきつき

9月3日の税務課オルグには、5人の組合役員と10人の税務課職員が参加して、積極的

な意見交換が行われました。若い男性職員が「自分分は取れなかったが、これからの人には母親・父親学級等にも特別休暇を使えるようにしてほしい」と訴えたのを皮切りに、「当局はいつになったら職員駐車場の整備(枠線の設置)をするのか」との質問や「統一要求の交渉を行う際、当局からは『近隣市町との均衡』を理由に要求を退けられていることが多いため、近隣市町との連携はできないか」との提案が続きました。

さらに、「有給休暇取得最小単位を15分にしてほしい」との要求、渡辺前委員長からも「非正規職員の病欠休暇と夏季休暇を要求してほしい」と次々に発言があり、役員との応答が繰り返されました。

「『組合加入のメリットは何か』という声を聞くことがあるが、お客さまとしてではなく、自分が主役として組合に関わってほしい」と要所々々で組合の役割や思いを伝えていました。

「ぼろっと出てくる職場の声」を大事に

オルグ終了後、水野委員長と中村書記長にお聞きしました。

「事前に職場要求を上げてもらうようにしていますが、オルグで話している意見や要望が、ぼろっと出てくる」

【解説】オルグとは「組織化すること」です。組合役員が現場に赴き直接対話し仲間を増やし団結を強化する様々な活動を指します。



中村書記長

し、組合の存在を身近に感じてもらう」とオルグの意義を語ります。そのためにも気楽に言い出せる雰囲気づくりを心掛けています。

職場環境は先輩が積み上げたもの

ここ数年は意見を聞くだけでなく、組合活動を知ってもらう機会として意識してオルグにとりくんでおり、メリット論のくだりは今年加えた点とのこと。

「『当たり前』に感じてはいるけれど、先輩たちが一つ一つ積み上げてきて今がある。自分たちも一つでも積み重ねて次世代につなげたい」と水野委員長。思いは脈々と引き継がれています。



Stand Up Puddle

勝浦市職 青年部・女性部合同企画 スタンドアップパドル体験

8月4日、勝浦市職は青年部と女性部の合同企画として、スタンドアップパドル(左下【解説】参照)体験を行いました。強い日差しでしたが、沖に出ると波は穏やかで、心地よい風を感じました。澄んだ海でイワシの群れに遭遇したり、ボードの上でヨカのポーズを決めたりと、参加者それぞれの楽しみ方で勝浦の魅力を再認識しました。



【スタンドアップパドルとは】サーフボードの上に立って一本のパドル(櫂)で水面を漕いで進むウォータースポーツの一種です。波や風がなくても幅広く楽しめます。

⑦野田市職労

～保育・現業の民間委託反対で運動～

1986年に野田市職労は、保育の拡充と清掃の改善の2つの署名に取り組みました。この運動は、野田市職労と保育所や学童保育所の保護者を中心に結成された「子どもを守り育む会」との共同の市民署名となりました。

戸別訪問して署名を集める

最近では、2017年からの組合と市民との新たな共同の取り組みによって、保育所の委託を保留させ、今年度18年ぶりの保育士採用を実現しました。

県本部結成70周年記念企画 今ふりかえる組合の歴史

History of our union
vol.7



市役所前での宣伝

告知 青年部未来ツアーin熱海

～熱海の激アツ「まちづくり」～

日時: 2020年1/25(土)-26(日)

場所: 静岡県 熱海市

内容: 『熱海の奇跡』の謎に迫る

- まちづくり会社machimoriによる
- (1) リノベーションまちづくり講演
自治体の担当者が語る
- (2) 自治体のまちづくりのとりにくみ講演

①熱海市観光経済課より
「ADさんいらっしやい」

メディア戦略

②産業振興室より
「A-biz (熱海市チャレンジ応援センター)」

事業者支援

住民と職員、両方の当事者から直接話を聞くことができる1泊2日の青年部企画。静岡の青年とも交流できます！
申し込み: 各組合事務所または県本部 (TEL043-227-9393) まで。

水野委員長は「近隣市町で職員組合があるのは勝浦市だけ。近隣市町の職員は思いがあっても言う場がない。勝浦市は彼らの思いも受け止めて一歩前へ出て地域全体を引っ張る役割を担っている」



水野委員長

「伝えたい
あなたが主役」